

「新型コロナが再び牙をむいた！」中華圏で感染者急増、香港では重症者の4割が死亡し小児の高熱入院も止まらない

5/20

中華圏で新型コロナ再拡大、香港で死者急増

中華圏で新型コロナウイルスの感染が再び拡大傾向を示しており、懸念が高まっている。17日、香港紙『サウス・チャイナ・モーニング・ポスト（SCMP）』は中華圏全域で新型コロナの感染者数が急増していると報じた。

香港の保健当局によると、過去4週間で新型コロナによる死者が30人に上った。特に、重症の成人患者81人のうち約40%が死亡しており、致死率が非常に高い状況だ。

新型コロナの陽性率も急上昇している。

香港では、先月初めに6.21%だった陽性率が今月初めには13.66%と、2倍以上に増加し、1年ぶりの最高値を記録した。



「新型コロナが再び牙をむいた！」中華圏で感染者急増、香港では重症者の4割が死亡し小児の高熱入院も止まらない

小児患者の急増と中国本土の状況

特に懸念されるのは、小児患者の急増だ。

香港のある公立病院の小児病棟責任者は、SCMPの取材に対し、「現在、病棟はワクチン未接種の子どもの感染者で満床状態だ」と語った。

一部の小児患者は、39度以上の高熱に苦しんでいるという。

中国本土でも、新型コロナ再拡大の兆しが見られる。

3月末には7.5%だった新型コロナの陽性率が、5月初めには16.2%まで大幅に上昇した。

西安交通大学附属病院の感染症科医師は「新規患者数は過去2週間で約2倍に増加したが、制御可能な水準だ」と説明している。

シンガポールなど周辺国の状況

シンガポールも新型コロナの再拡大に対応を迫られている。

約1年ぶりに新型コロナ患者数の集計を再開したシンガポールでは、先週の感染者数が前週比28%増の1万4,200人に達した。

入院患者も同期間に30%増加し、医療システムへの負担が増している